

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-161	13-328	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
The effect on problematic drinking behavior of a brief motivational interview shortly after a first arrest for driving under the influence of alcohol: a randomized trial. 酒酔い運転のための初めて逮捕された直後の短期動機づけ面接の問題の飲酒行動に対する効果：無作為試験。		
執筆者		
Utter GH ¹ , Young JB, Theard LA, Cropp DM, Mohar CJ, Eisenberg D, Schermer CR, Owens LJ.		
掲載誌		
J Trauma Acute Care Surg. 2014 Mar;76(3):661-70		
キーワード		
酒酔い運転、動機づけ面接、逮捕		
要 旨		
<p>背景</p> <p>医学的な設定では、動機づけ面接面ベースの「短期介入」(BI) カウンセリングは、アルコール関連のリスクをいとわない行動とリスクの大きい集団における有害事象を低下させる。酒酔い運転 (DUI) の理由で逮捕される個人は、もう一つのリスクの集団である。我々は、最初の DUI 停止の直後に投与される BI が問題飲酒行動を減少させるかどうかについて検討した。</p>		
<p>方法</p> <p>我々は、単一施設パラレル二重盲検優位性無作為試験 (NCT01270217) で 2010 年 12 月から 2011 年 4 月まで郡の刑務所で初めての DUI 逮捕者を登録した。彼らの解放の前に、コンピュータ生成の順序によって参加者をランダム化し単回の BI 群または介入なしの群に分けた。主要アウトカムとして Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT) スコア (範囲 0-40、より問題の飲酒を示しているより高い値) の 90 日の変化を評価した。</p>		
<p>結果</p> <p>200 人の被験者 (各アームは 100) を登録した、そして、181 人 (90.5%、86 人の対照と 95 人の BI) は 90 日の追跡調査を完了した。平均年齢は 30 歳 (SD10) であり、50% は男性であった。逮捕時の血中アルコール濃度は 0.14% (0.04%) であった。平均ベースライン AUDIT スコアは、対照被験者で 8.8 (5.8) と BI 被験者で 7.7 (6.3) であった。90 日後に、AUDIT スコアは、BI 被験者で 3.4 (5.0)、対照被験者で 4.7 (5.1) と BI 群で減少していた (差、-1.3;95%信頼区間 [CI]、+0.1 に対する -2.8)。その後の一気大量飲酒飲みの可能性 [相対危険度 (RR) 1.6;95%CI、0.8-3.0;BI 対制御]、断酒 (RR、0.9;95%CI、0.4-2.1)、アルコール関連の自己または他への損害 (RR、0.4;95%CI、0.1-2.4)、そして、治療の要請 (RR、1.2;95%CI、0.8-1.7) と異ならなかった。</p>		
<p>結論</p> <p>初めての DUI 停止の直後の単回の BI カウンセリング・セッションは、90 日後の自己申告の飲酒行動を減らさず、そのような考察なしで起き越えて飲むために治療をすることの要請も増加させない。</p>		